

平成29年度

第1回岩沼市総合教育会議

議事録

1. 招集日時 平成29年5月23日(火)午後3時00分
2. 招集場所 岩沼市役所 6階 第二会議室
3. 議 題 (1) 平成29年度予算における教育分野の主な取組について
(2) 平成30年度以降の教育委員会の課題について
4. 出席者 菊地啓夫市長、佐藤雅晴委員長、小林修子委員長職務代行者、
藤川チユキ委員、南館公雄委員、百井崇教育長
5. 出席補助職員
鈴木隆夫副市長、大友彰総務部長、高橋伸明建設部長、
佐藤修司参事兼学校教育課長、沼田輝明生涯学習課長兼スポーツ振
興課長、遠藤大輔政策企画課長、菅原康宏政策企画課主幹兼企画調
整係長
6. 欠席委員 なし
7. 傍聴者 なし
8. 本会議の書記
大友悦男教育総務課副参事兼課長補佐
山下真理子教育総務課総務係長
9. 開会 午後3時00分
10. 閉会 午後4時35分
11. 議事録署名人
百井崇教育長
12. 事務局職員
高橋弘昭教育次長兼教育総務課長事務取扱、大友悦男教育総務課副
参事兼課長補佐、山下真理子教育総務課総務係長
13. 議事の経過
以下のとおり

高橋教育次長兼総務課長事務取扱

只今より平成 29 年度第 1 回岩沼市総合教育会議を開会いたします。

開会に当たりまして、菊地市長より御挨拶をいただきます。

菊地市長

本日は、お忙しいところお集まりをいただきましてありがとうございます。

年 2 回、5 月と 11 月に総合教育会議を開催するというので、本日が第 1 回目の開催となります。平成 29 年度の事業概要と方向性についての御意見をいただき、岩沼市らしい進め方を議論していきたいと考えております。特に施設の整備、生涯教育関係については大事な部分となりますので、できるだけ市としても支援していきたいと思っております。教育そのものについては、教育委員の皆さんからの御指導をいただきながら岩沼市の教育方針を基に取り組んでいただきたいと思います。教員の数が不足して仕事が増えている中、子どもたちと向き合えない等の御意見もいただいております。岩沼市としては、先生方を応援していきたいし、市長部局と意見交換をさせていただきながら、よりよい教育を目指していただきたいと思いますので、本日は御意見をいただければと思います。

仙台市が指導力を無くしたということで、文部科学省より厳しい指導を受けていると新聞報道等がございましたが、教育委員会の指導力がどの辺にあったのか、市長がどこまでその情報を把握していたのかという点が問われております。岩沼市ではしっかりと連携を取りながら組織的に問題解決をしていきたいという思いで新聞を読ませていただきました。学校だけ、教育委員会だけという縦割りではなく、問題が起これば組織的に取り組んでいく、市長部局も教育委員会と連携して取り組んでいきたいと思っております。総合教育会議が発足した趣旨についても、そういった点が滲み出ており、市長が一步下がって見ているのではなく一緒になって、子どもたちの教育・安全に取り組んできたという思いががございます。新聞報道等を見ますと仙台市長が非難されているのは一步下がっていたのではということで指摘を受けているのではないかと思います。仙台市長は教育

長も経験されており相当思慮されているかとは思いますが、1度問題が起きてしまうとコントロール出来ないのが現実だと思います。子どもたちを学校、行政、地域、保護者、みんなで支えあっていくという雰囲気を作っていきたいと思います。

本日は、委員の皆様より御意見をいただきながら進めてまいりたいと思いますので、御協力をお願いします。

高橋教育次長兼総務課長事務取扱

続きまして、教育委員会を代表しまして、佐藤教育委員長より御挨拶をいただきます。

佐藤委員長

それでは、一言御挨拶を申し上げたいと思います。本日は、菊地市長様には大変お忙しい中、平成29年度の第1回目の総合教育会議を開催いただきましてありがとうございます。

お陰様で岩沼市の教育行政に関しましては、菊地市長様の深い御理解と力強いリーダーシップの下、教育施設の整備と教育内容の充実強化が図られておりまして、着実に教育の成果が上げられ、実が結びつつあると感じております。現在の教育環境については、20年後、30年後に安心して充実した高い生活を達成していくための投資ではないかと考えております。岩沼で生活をされる方々が学校教育、生涯学習活動、家庭教育活動が円滑に図れるよう教育委員会としても、子どもたちが社会に関わりを体験できる学習の場として教育施策の検討をしてまいりたいと考えておりますので、引き続き御理解を賜りますようお願いいたします。

市長さんからもお話がございましたが、いじめ問題については、現象面だけを追うのでは解決されませんので、地域社会との連携、学校教育が地域社会の中でどのような役割を担っていくのかをお互いに確認をすることが大事ではないかと思っております。家庭での教育力の低下が著しくなっており、塾やスポーツクラブ、学校へそのまま丸投げして子どもたちを出してしまい、家庭は宿舎程度の機能しかない状況です。土曜日に運動会に参加し、子どもたちが生き生きと活動をしている様子を拝見いたしました。家庭でのお

昼ご飯の様子を知りたいと思って参加させていただきましたが、市販のお弁当などを購入されて食事されていた家庭がかなり多く見受けられ、家庭の教育力に疑問を感じさせられたところでした。教育委員会といたしましては、子ども自身が成長した際に、岩沼市で教育を受けて良かったと思われる教育環境を目指していきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

高橋教育次長兼総務課長事務取扱

それでは協議に入らせていただきますが、総合教育会議の議長は、運営要綱第4条の規定によりまして、市長が務めることになっております。ここからは菊地市長に会議を進めていただきたいと思います。それでは、よろしくお願いいたします。

菊地市長

それでは規定により議長を務めさせていただきます。はじめに、議事録署名人を決めさせていただきます。今回は、百井教育長にお願いしたいと思いますが、皆様いかかでしょうか。

構成員

異議なし。

菊地市長

議事録署名については、百井教育長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

議題に入らせていただきます。(1)平成29年度予算における教育分野の主な取り組みについて、事務局から説明をお願いします。

高橋教育次長兼総務課長事務取扱

それでは、資料の1ページ目をご覧ください。

1点目、平成29年度予算における教育分野の主な取り組みについてでございます。平成29年度の教育関係予算は、総額11億503万円となっており、継続事業はもとより、施設維持修繕事業、指導助手の増員など新規事業にも応分の配慮をしていただいたものと考えております。

それでは各課から、説明させていただきます。

教育総務課関係でございますが、今年度の教育総務課、基本方針の4項目に基づき、学校施設長寿命化計画に沿った学校施設・整備の維持修繕を行ってまいります。岩沼小学校の給水管の更新、岩沼西小学校と岩沼南小学校のトイレの洋式化、みやぎ環境交付金を活用した玉浦中学校体育館のLED照明の更新をいたします。小学校給食調理業務の民間委託化については、中学校に引き続き、アウトソーシングに向けた課題の整理と準備作業を行ってまいります。学校の備品、教材の更新については、学校の意向を把握して、必要な備品、教材を整備することとして、今年度は、小学校の教育用ICT機器を更新いたします。先を見越した職員の配置と人材育成につきましては、教育指導専門監を増員するとともに社会教育指導監を配置し、多様化する教育の課題解決に取り組んでまいります。また、アウトソーシングを進めることで、市職員の適正な配置と資質向上のための研修を継続してまいります。

続きまして、学校教育課分について説明させていただきます。

佐藤参事兼学校教育課長

平成29年度は、愛を育み愛のある教育の実践を図るために4つの取組を掲げております。1点目は学力向上推進事業です。夏季休業、冬季休業、放課後において「岩沼学び塾」を開催し、地域の方々や大学生の御支援をいただきながら、子どもたちに学びの場を提供していき学習習慣づくりに取り組んでいきます。2点目は夢あこがれプロジェクトの展開です。西村まさ彦さんの朗読会を始め、仙台フィルの演奏、理科大好きフェスティバルなどを開催し、子どもたちが本物に触れる機会をたくさん提供します。この事業以外にも市当局御理解の下、多くの人材を学校現場に配置していただき、子どもの教育に決め細やかな対応をしてまいります。さらに岩沼市でしか取り組んでいない特色ある学校づくりの助成を活用し、特色ある学校づくりに取り組んでまいりたいと考えております。

沼田生涯学習課長兼スポーツ振興課長

生涯学習課の平成 29 年度事業の主なものについて御説明申し上げます。

第二次生涯学習推進計画に基づき、誰もが学べる生涯学習環境の向上のため、市民ニーズを捉えた学習機会の提供ということで、資料にあります事業を実施していきます。

1 点目の青少年相談事業としまして、③少年の主張がございませう。今年度は、6 月 13 日、岩沼北中学校を会場に開催いたします。各中学校から 2 名の推薦をいただき、8 名で発表会を行い、その中から優秀者 1 名を 7 月 4 日に松島中学校で開催される仙台地区大会に推薦するものです。

2 点目の生涯学習推進事業としまして、①ジュニアリーダーの養成で、中学生を対象にした初級研修会の開催、小学 5・6 年生を対象にした子ども合宿の開催また、ジュニアリーダーとして必要な知識・技能・態度等の研修会も強化合宿として開催する予定としております。現在の登録者数は、中学生 56 名、高校生 17 名、合計 73 名となっております。次に、④防災キャンプの開催ということで、宮城県生涯学習課から助成金をいただいて、玉浦小学校育成会と協働で、新しく建設された玉浦コミュニティセンターを会場に 7 月 22 日・23 日と一泊二日で開催する予定となっております。

4 点目の放課後子ども教室推進事業としまして、「のびやか教室」を開催いたします。各小学校を活用して、6 月から翌年 2 月までの期間中 20 回から 24 回の教室を開催予定としております。午後 2 時 30 分から午後 4 時 30 分までの 2 時間で、宿題を終わらせて、色々なスポーツや遊びを地域住民の方々と交流をしながら体験する事業です。

5 点目の市史編纂事業では、今年度に通史編「原始・古代・中世」の刊行及び、特別編「自然」の刊行を予定しております。

生涯学習課については、以上となります。

次に、スポーツ振興課の平成 29 年度事業の主なものについて御説明申し上げます。スポーツ環境の向上のため、市民ニーズを捉えた運動機会の提供、施設・設備を含めた、適切な管理運営の検討を進めるということで、資料にあります事業を実施してい

きます。

1 点目のスポーツ団体育成事業としまして、①学校開放事業ということで、小・中学校の体育館・校庭を市民のスポーツ活動の推進を図ることを目的として、事前に登録していただいた団体に開放している事業です。4月時点の登録団体数は、65団体となっております。次に②体育関係団体の支援ということで、岩沼市体育協会並びに、岩沼市スポーツ少年団本部に岩沼市より補助金を支出しております。

3 点目の体育施設の管理運営等の指定管理によるアウトソーシングの推進ということで、早期に検討を進めてまいります。

4 点目にあるように主な行事は、御覧の予定となっております。

①の全国高校生銃剣道大会及び、⑥のいわぬまエアポートマラソンにつきましては、6月に第1回目の実行委員会を開催する予定としております。

以上となります。

菊地市長

只今、説明がございましたが、質問がありましたらお願いいたします。

南館委員

学校教育課の事業の夢あこがれプロジェクトについて、西村まさ彦さんの朗読会の日程はどのようになりますか。

佐藤参事兼学校教育課長

今年度は、7月3日、西小学校で開催予定です。年度ごとにローテーションで行い、昨年度は、午前に玉浦小学校と午後に岩沼中学校において、西村さんに朗読していただきました。本物を見せるということを1番のポイントとして、発声の仕方や表情の仕草などを見せていただき、本物に触れるいい機会ではなかったかと思います。今年度は、西小学校で開催されますので、ぜひお越しいただければと思います。

南館委員

時間については、決まっておりますか。

佐藤参事兼学校教育課長

現在、調整中です。

南館委員

西村さんにはロータリークラブでも御協力をいただいておりますので、時間等が分かれば、参加したいと思います。

菊地市長

子どもたちを相手に話をするのは難しいことだと思います。私もそうなのですが、うまく伝わらないのではないかと不安になります。子どもたちにきちんと向きあつて話をされている先生方は、素晴らしいと思います。西村まさ彦さんも子どもたちを相手にすると、どの辺に話を絞っていけばよいか大変御苦労されながらお話をされているようです。岩沼市の健幸大使として毎年お越しいただいておりますので、日程等が分かれば早めに教えてください。

私の方から話題を提供させていただきます。公立の小中学校の洋式トイレの普及状況について調べてみました。全国平均では、洋式43.3%、和式56.7%となっており、依然として半数以上は和式となっております。宮城県では、洋式38.4%、和式61.5%となり、ここに大きな問題があると思います。首長が集まり、国や県に対して要望を出すのですが、岩沼市としては、国に対し学校整備を提案させていただいております。特に28年度には長寿命化計画を策定し、問題があるとしているのに予算がなくてできないことがたくさんありますので、国に対してお願いをしているところです。今お話をした洋式トイレの普及状況については今年の4月1日時点のものですが、家庭では約8割が洋式化されていると思いますので、29年度中に小学校だけでもトイレの洋式化を完了させまして、国の補助を求めていきながら中学校のトイレの洋式化についても進めていきたいと思っています。財源の確保が難しい状況ですが、昨年度も当初予算ではなく補正予算で4700万円措置された状況です。28年度予算から繰越して29年度の事業としております。来年度にも、また、要求してまいります。非常に不安定な財源状況となっ

ております。出来るだけ普通のトイレとして利用できるように整備していきたいと考えております。

スポーツ振興課で総合体育館のアウトソーシングを進めていくということで、市としても支援していきたいと思っております。職員が体育指導をするのではなく、専門知識を持つ方が技術面の指導を行う方が望ましいと思います。2, 3年のサイクルで職員は変わり、専門的な知識を持たない職員が体育指導をするのでは、市民が望むような事業が組めてないと思っておりますので、何かお考えがございませんでしょうか。

藤川委員

中学校の部活動の場合、先生の指導力がチームの強さに比例することが良くあり、指導力のある先生が転勤されると成績が振るわなくなるのは、運動部に限らず、ブラスバンド部や合唱部等の文化部でもあります。スポーツの指導はいろいろなデータが揃うようになり、トレーニング方法も新しくなっており、青少年の体に負担とならないトレーニング方法も取り入れていかなければなりませんので、常に新しい情報を入手して専門性のある方が指導者に適していると思えます。

この前のニュースによると、サッカー協会は効率的なトレーニング方法やどうすれば子どもたちが楽しく長続きする活動ができるかを常に求めていて、指導者に多くの講習を課すそうです。野球についてはあまり動きがなく、ボランティアで監督やコーチをされている方に任せっ放しにしているそうです。現在の小学生で比べると、野球よりサッカーを選択している子どもの方が圧倒的に多くなっています。その要因がそういったことにあるのではないかということで、野球の指導者が組織的にスキルアップできる場を提供していかなければならないといった内容でした。有能な選手に限って無理をしてしまい、長く選手生活を続けられないといったことがありますので、若くて成長段階にある子どもたちが健康的に楽しくスポーツが出来るような視点に立って指導して下さる方が必要なのではないかと感じております。継続的な活動をすることによって、地域の方が支援していただけるようなつながりを大事にしていかなければならないと思

ます。

菊地市長

基本的に体育施設の管理については、民間にお任せした方が、様々な情報や技術を持っていますことから、より良い運営が可能になるのではないかと思います。受け皿となる団体が必要となる課題等がありますが、出来るだけ早期にアウトソーシングを進めてまいりたいと思いますので、御協力をお願いします。

小林委員

アウトソーシングについては進めていくのが妥当であると思います。スポーツの指導そのものまで関われる団体等に引き受けていただいた方が、社会体育面でも、子どもたちが一人で行った時に指導していただけるといった面でもメリットがあると思います。指導員を含めた形での管理団体にアウトソーシングが出来れば良いと思います。

後の方で議題になるかと思いますが、教員の働き方として部活動のことを気にかけております。指導員の育成という面からも生涯スポーツ団体の育成事業というのは、これからの重要な課題であると思いますので、その辺も踏まえた上で管理団体を選考していただきたいと思います。

菊地市長

総合体育館にあるトレーニング機材についてはこれまで買取しておりましたが、壊れてしまうと直せず、場所はあっても機材が使えないということがありました。現在はリースにしておりますのでいつでも使える状況になっております。いろいろなトレーニング方法がありますので、皆さんが自由に使用しており、それでいいのか私には分かりませんが、年配の方も利用されておりますので、そういった方にも指導していただけるとありがたいと思いますし、体育館を利用される方のレベルを少しでも上げていけたらと思います。

佐藤委員長

岩沼市は、他市町村と比べて、社会体育施設を含めてスポーツ施設が多いと思います。

多くの市民の皆さんに利用していただき、また、利用しやすいような管理運営が必要なのかなと思いますので、アウトソーシングについては賛成です。どうしてもマンパワーの問題があって、公共施設を市で管理しても市民サービスとして提供出来かねる部分がありますので、早めにアウトソーシングをする方向で検討していかなければならないと思います。その中で、専門性のあるスポーツと市民の健康や体力の向上を目指すものとプログラムを分けて、社会スポーツに対しては無償、専門性あるスポーツに対しては有償でやっていくという、有機的な広がりや専門性を兼ね備えた形で体育施設を利用してもらうことを考えてもいい時代になってきたのではないかと思います。スポーツ施設だけでなく生涯学習施設についても同じであると思います。受益者負担を考慮して有償でもいいという人たちの社会的ニーズを生かすような、専門性のあるプログラムを考えられるようにして施設を有効に活用してもらった方が良くはないかと思います。

菊地市長

市民の皆様の情報量が大変多くなってきておりまして、自分で勉強して情報を集めてトレーニングされている方もおりますし、より高いレベルを求めてきているようになっています。総合体育館に当てはめてみると、思うような指導をしてくれないとか、使い勝手が悪いという点に行き着いてしまいます。健康づくりのレベルであれば、市で対応できるのですが、それ以上の専門的な内容であれば有償化を考えていかなければならないのかなと思います。アウトソーシング化を図り、様々な企画を作ることによって事業者も収益が上がることにつながると思います。多くの体育施設がありますので、有効な活用方法について勉強をさせていただいて、議論をしていかなければならないと思います。

タブレット等の教育用 ICT 機器がどんどん導入されるようになり、お金をかけるのであれば際限がなく、行政側としては難しいところがございます。最低でも他の自治体と同じレベルになるように ICT 機器の導入を行いたいと思っております。教材についてはしっかりと揃えてあげ、そこから先については、学校側の努力や生徒の改進にお任せし

たいと考えております。

百井教育長

岩沼市の ICT 教育については、宮城スタイルのモデルとなっており、タブレットの導入等で先行しております。ICT 機器が導入されていても、機器を使える教員や子どもたちがいなければ意味がありません。岩沼市では、ほとんどの教員が使いこなせますので、有効活用が図られているものと思います。教職員が ICT 機器を使おうとする意欲が大事であると思います。

菊地市長

ICT 機器は使いこなすことが本当に難しいと思いますので、指導できる方がいれば尚良いと思います。先生方の前向きな取り組みによって活用していただいているようですので、ありがたいと思います。

百井教育長

岩沼の場合は、日常に溶け込んで ICT 機器を活用しているのが良いのだと思います。

菊地市長

ICT 機器は、クラスで使い分けられているのでしょうか。

百井教育長

クラスで使えるようにしており、グループで1台というような使い方をしております。全員に1台という自治体もありますが、そこまでの必要はないと思います。

佐藤委員長

生涯学習課で行っている事業2-②子育て・親育ち講座の開催と④防災キャンプ開催についてですが、家庭教育のあり方や、子育て、子どもたちが社会に巣立った際の最低限のルールについては家庭で教えていかなければ何ともならないのではないかと思いますので、その何ともならない問題が今、学校教育の中で抱えられています。不登校の問題で、生徒を呼ぶために先生が90回も家庭訪問をしていたという話も伺っております。果たして、それが学校の先生の役目なのかと疑問に思いますので、学校教育、生涯

学習、家庭教育の枠組み設定を初心に帰って考えてもらえるような事業に取り組んでいただきたいと思います。前提条件が揃わないと、教職員の多忙化解消をしようとしてもうまくいかないのではないかとともに思います。

防災キャンプについては、自分の身は自分で守るという前提をしっかりと身に付けてもらうような事業にしていきたいと思います。施設の有効活用を図る点からも、できるだけ多くの人たちに関わっていただき、防災意識の高揚につながるよう発展させていきたいと思います。

菊地市長

平成 30 年から、道德の時間が学習要領に組み込まれると伺っておりますが、期待できる内容でしょうか。道德を教える教職員もあまりいませんし、道德を履修科目として扱うや大学もあまりないこともありますので、道德教育についての研修などが必要ではないかと思いますが、見通しはどうでしょうか。

百井教育長

道德の教科化については、30 年度からになります。研修については、今後、文部科学省から通知があるかと思っています。道德教育が一般社会の中で誤解され、行儀作法を教える時間とされていると感じることがあります。道德教育は価値あるものに触れ、崇高なものに触れて考えさせる教育です。評価の部分も入ってきますので、パターン化した評価にならないようにしたいと思います。

菊地市長

それでは、(1)の平成 29 年度予算委における教育分野の主な取り組みについては以上とさせていただきます、(2)の平成 30 年度以降の教育委員会の課題について、を議題にします。事務局より説明をお願いします。

高橋教育次長兼総務課長事務取扱

2 点目の平成 30 年度以降の教育委員会の課題についてを御説明いたします。

大きく分けて、3 点、教員の働き方と小中学生のスポーツ活動、学校の長寿命化計画

に基づく施設の改修、小学校給食調理業務と総合体育館等のアウトソーシングでございます。

佐藤参事兼学校教育課長

1 点目の教員の働き方と小中学生のスポーツ活動について、御説明いたします。

現状から御説明しますと、月の在校時間が 80 時間を超える教員が増えつつあります。その理由としましては、小中学校における生徒指導等に費やす時間が挙げられ、家庭問題や中学校では部活動の指導が入ってきます。放課後の時間がなかなか取れないという状況もあります。教員の多忙化を解消するために、部活動の指導に関して週 2 回の休養を取るよう指導しております。また、時間を有効に活用するために、学校内では会議の縮小化や省略化、定時の退勤日を週 1 回設ける学校もあります。このままで行きますと、教職員の時間があまりにも増加していくので、この場で議論をお願いしたいと思います。

高橋教育次長兼総務課長事務取扱

2 点目、学校施設長寿命化計画に基づく施設の改修等ですが、岩沼市学校施設長寿命化計画を平成 29 年 3 月に策定いたしました。

まず、補助事業の内容についてご説明いたします。

長寿命化改良事業の補助条件は、建物建築後 40 年以上経過、今後の使用予定 30 年以上、改修面積は、原則として建物一棟全体を改修、構造体の長寿命化、ライフラインの更新が条件で、大規模改造事業については、建物建築後 20 年以上経過、今後の使用予定 30 年未満でも可、改修面積は、内部・外部のいずれかの施工割合が 70%以上、もう一方が 50%以上、構造体の長寿命化、ライフラインの更新は実施しなくとも対象になります。

平成 29 年度では、岩沼中学校東校舎と本校舎、玉浦中学校校舎の外部調査を実施するとともに、岩沼小学校の給水管を更新いたします。

今後の工事予定としては、建築後、40 年を迎える、岩沼西小学校の給水管更新と、岩

沼西小学校の校舎及び屋内運動場の改修について準備を進めてまいります。

3 点目、学校トイレの洋式化については、中学校のトイレ洋式化工事を 2 校ずつ、2 ヶ年度にわたって実施することを予定しております。

4 点目、小学校給食調理等のアウトソーシングについては、26 年 1 月より、岩沼北中学校、27 年 2 月より、岩沼中学校、玉浦中学校、岩沼西中学校の給食調理等アウトソーシングを開始しております。

小学校の給食室建築年次と児童数については、岩沼小学校が 632 人、玉浦小学校が 408 人、岩沼西小学校が児童数 1051 人、岩沼南小学校が 540 人ございます。

アウトソーシングの時期等について、これまでの入札結果などから推察しますと、業者においても従業員確保の課題が見受けられますので、4 小学校、一度にアウトソーシングするよりも、2 ヶ年度にわたって、2 校ずつ実施することがよろしいのではないかと考えております。

5 点目、総合体育館等の指定管理者によるアウトソーシングですが、他市町における指定管理者導入状況については、石巻市、大和町が、民間企業に、名取市、白石市、塩竈市、登米市、気仙沼市が、地元体育協会に、多賀城市、登米市、大河原町、七ヶ浜町は、地域スポーツクラブに指定管理者としてアウトソーシングしております。

指定管理者の形態としては、民間企業単独、地元体育協会単独、民間企業と地元体育協会の共同体による指定管理者もございます。どの形でも正解といえるものであり、岩沼市の実態に合った形での指定管理者に体育施設の管理運営を任せることで準備を進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

菊地市長

只今、説明がございましたが、質問がありましたらお願いいたします。

佐藤委員長

学校週 5 日制が導入されたときは、2 日の休みのうち、1 日は子どもたちを家庭に帰

すようにし、社会教育活動を充実しなさいとの文部科学省の指針が出されましたので、地域社会で様々なイベントを組んだりして、学校の活動と競合しないような動きがございました。しかしながら、そのとおりにならず、各学校では土日の休みのうち1日は部活動に充てるようになってしまいました。一つには、指針の統一性が欠けているために、各市町村の教育委員会で対応が違い、地域社会や先生方が苦慮しているのだと思います。先生方の転勤や転入を見ておきますと、岩沼在住で岩沼の小中学校に勤務される方が多くはいらっしゃらないようです。例えば月の在校時間が80時間を超える教師がいるとしても、それに通勤時間も加わり、さらに時間が増えることとなります。先にもお話をさせていただいた土曜日の運動会の席で、保護者の方から、運動会が気になり過ぎて朝2時に目が覚めてしまい、朝早くに学校にいらっしゃった先生の話をお伺いしました。学校を盛り上げようと努力されている先生方もいらっしゃいますので、岩沼市においては大変いいことかなとは思いますが、勤務の実態としてはいかがなものかなと思います。

中学校の場合ですと、先生方からは部活動のことが頭から離れないのではないかと思います。部活動を任せられますとどうしても中体連では勝ちたいという意識が出てきます。先ほどの教育委員会でも話題になりましたが、学校教育における中体連の位置づけに疑問を感じております。東欧圏等では、学校の中にスポーツ施設を併設しておりますが、学校教育以外で、社会体育としてスポーツ施設を使うように分けられています。アメリカでも、義務教育課程において、学校の中で競技スポーツを行うことはないのではと思います。日本や発展途上国では国威高揚のためにそういったところが残っているのではないかなという気がします。

百井教育長

日本の部活動は、学校に任せてしまうと、組織がしっかりしておりますので何とか出来てしまいます。それが、今、過剰になり過ぎて、部活動が競技スポーツに変わってしまっています。中学生を見ていると、学業と部活動のバランスを取っていない感じがします。学業は本来学校で行うものですから、きちんとバランスを取ってほしいと思いま

す。

中体連に関しては、いろいろな課題等がありまして、その一つとして負担金の課題があります。運動部に入っていない生徒も含めて生徒全員分として中体連の負担金を出しております。この課題点に関して、昨年度において、宮城県の中体連会長に申し入れをしておりますが、宮城県では、負担金を減らされると、運営が厳しくなるので御協力下さいといった状況です。4月のPTA総会の折に、保護者にその旨説明をしまして、了解は得たところですが、組織の弊害が出てきていると感じております。駅伝については、当初、日本陸連では中学生の駅伝を認めておりませんでした。現在では正式に認められております。かつては、成長期の子どもが、持久力の必要なスポーツを行ってはいけないとの見解でしたが、中学生が出場すればより盛り上がることから認めるようになったようです。

学業と運動のバランスを取った生活をしていくことが大事だと思います。部活が終わってから塾に行き、塾帰りに親が迎えに来るような生活は疑問に感じております。塾を否定するわけではありませんが、学校でやるべき姿を考え直さなければいけないと思います。教職員の生活についてですが、部活動指導していた教員が朝練をして午後7時までは部活で、7時から9時まではスポ少があるということで、その教員は9時まで残っておりました。結果として、体調を崩してしまったことがあります。岩沼市としましては、保護者の理解を得ながら、過剰な部活動に対して制限をしていかなければならないと考えております。

菊地市長

部活動については、熱心にやれば、土日の休みに試合や移動などが入ってしまいますので、大変な勤務になってしまいます。

百井教育長

昨年、西地区のスポーツ少年団の協力を得まして、西中学校のサッカー部の部活動指

導を行っております。そういった動きを形を変えてお任せしていけないだろうかと考えております。受け皿となる団体があれば各学校で団体に見合ったようなお手伝いをいただければと考えております。

菊地市長

国は一方的に働き方改革を進めていますが、学校現場では追いついていないのが現状です。

百井教育長

早く帰っても仕事は同じですので、仕事を減らしていかないと早く帰れませんので、その点を改善していきたいと思います。

佐藤参事兼学校教育課長

私も学校現場におりましたので、部活動の指導をした経験はあります。今、考えてみますと自分のライフワークスタイルを考えた時に、あまりにも仕事に時間を費やしてしまっていると感じております。中学校の場合、放課後から6時までは部活動の指導をして、その後に仕事をするようになりますので、7時から始めたとして9時頃までとなくなってしまいます。それが5日間続きますと、大分負担になります。健康状態を考えた場合、どこかで制限をかけていかなければならないと思います。

菊地市長

一概にこうしてくださいと言えないので難しい問題だと思います。先生方には、少しでも時間を確保していただいて、部活動以外の分野で力を発揮していただきたいと思います。

佐藤委員長

宮城県では学力向上を目指さなければならないという至上命題がございますので、部活動と学業を両立させることが出来るのかを考えていかなければならないと思います。

菊地市長

秋田県は全国テストで上位にありますが、どうしてでしょうか。

佐藤委員長

ある秋田県の教育長さんとお会いした際に、秋田県の地方では塾が少ないので、学校中心の教育ができて、繰り返し繰り返し学校教育の中でできる時間があり、それが効果的なのではないでしょうかとお話がありました。保護者も含めて子どもたちの時間の使い方を有効にできるように指導していくのが大事だと感じました。その中では、塾や部活動も含まれるかと思います。岩沼市の教育委員会の方から、部活動に対する一定の考え方を示してもいいのではないかなと思います。時間数を減らすのではなく、子どもたちへの全人教育的な高まりを図るためには、こうしなければならないということを打ち出してもいいのではないかと思います。

南館委員

先生方はお忙しすぎますので、何とか負担軽減に努めていただきたいと思いますので、部活動の外部委託は大変大事であると思います。部活動で一番大事なことは、人として生きていくうえでの礼節やルール等をしっかりと教えていただくことですので、岩沼市として重点的に目指していただきたいと思います。

タブレットを活用して授業に生かしていくことは、非常に大事であると思います。私の診療所でも若い人と年配者では習得するのにかなりの差があります。ICT を活用した授業を行っていただければ、子どもたちも就職した際に大変役に立つと思いますので、ぜひ進めていただきたいと思います。また、先生方もタブレットに教材の資料を取り込めますので、大分楽に仕事を進めることができると思います。

生涯学習推進授業の中の防災キャンプ開催についてですが、会場と対象者はどちらになりますか。

沼田生涯学習課長兼スポーツ振興課長

会場は、5月1日にオープンしました玉浦コミュニティセンターを活用して、玉浦小学校の児童を対象に行います。

南館委員

年1回の補助を活用しての事業になりますか。

沼田生涯学習課長兼スポーツ振興課長

今回は、特別に県の補助事業を活用しての開催となります。昨年度は玉浦地区育成会の主催で行いまして、今回については協働で行います。

南館委員

東日本大震災を風化させないためにも良い事業だと思います。8年に1度は各学校で開催できて、事業を継続していければ尚良いのかなとも思います。津波や地震による災害だけでなく核ミサイル等による脅威もございます。風向きを知り逃げる方向を考えるような術を身に着ける必要がございますので、そういった内容も含めて多くの児童が防災意識を高めていけるような事業を行っていただきたいと思います。

菊地市長

防災キャンプについては、昨年度に引き続いて行う事業だと思います。新しい年代に切り替わっておりまして、震災を経験した児童がいなくなりました。

補正予算が組まれておりますので、ぜひ、事業化してもらいたいと思います。

私の経験からですが、玉浦地区の復興が早かったのは、地域のつながりがあるからまともにも良く、いざという時には結束力があったからだと感じております。日頃からお互いが顔見知りで協力的にやっているからだと思います。他の地域にはないことです。防災教育が防災キャンプの事業によりさらに培われていけばと感じております。

藤川委員

西小学校の長寿命化計画について、適当であるのか疑問に思います。当面は、改修しながら使用していくというのは分かりますが、人数と面積等のバランスが取れていない状況で、健全な学校教育が実現できるのかなと思います。運動会にしても、面積が狭いために人数制限をしないと実施することが難しくなっている状況です。10年後を考えたときにあの面積で大丈夫なのかと思います。コミュニティは学校中心に成長していくことがあります。体育館も1年生から6年生、その保護者が一堂に集まることができず、

学習発表会等の際には総入れ替えとなってしまう状況です。財政的な問題や場所の選定等の問題があるかとは思いますが、西地区の地域性を考えると、長寿命化計画に添うべきか考えていかなければならないと思います。長岡、小川、志賀地区などの田園地帯では道路の整備が進んでいけば、西地区はさらに住宅地が造成されていく余地があると思いますので、将来的に新たな場所を選定する考えも必要ではないかと思っています。

百井教育長

現在、西小学校の児童数は 1050 人となっており、来年は 40 名が減り、1 クラス分が減る見込みです。市内で増加しているのは玉浦小学校ぐらいで、他の小学校については、減少傾向にあります。西小学校については、1 年に 40 名程度減少していく見込みです。朝日地区の造成の際にシュミレーションしたのですが、増加ではなく減少する予想となりました。

菊地市長

今後の推移をしっかりと見定めていく必要があると思います。西小学校の体育館については修繕の必要を感じておりまして、現在の施設を何とか有効に活用していくしかないものと考えております。建替えの場合には、どれぐらい先になりますか。

百井教育長

5 年先にはなるかと思っています。

菊地市長

許可となればと思いますが、将来的には児童数が減少するとの見通しですから、根拠が難しいと思います。今後の推移を見ながら進むことと、既存施設をしっかりと整備していきながら有効化を図ることを考えていくことだと思います。

佐藤委員長

今後のまちづくりの中心は、西地区であると思います。東北地区は比較的地縁的関係が強く、その地域に生まれた方が地域の近くに入っていくことが多く、若い世代が地域社会に入っていくやすいと言えます。岩沼市が一定の人口を確保していくためには、西

地区に住宅地としての魅力を失わせないことであり、その魅力の一つは教育機関が充実していることだと思います。仮に 30 年間の借金をするとしても、教育に関するものであれば反対される方はいないと思います。

西地区が拡大していくのであれば、防災拠点などの機能がある公共ゾーンをどこかに確保しなければならないと思います。西小学校の周辺に防災センター等の、世代を超えた人たちの施設を整備すべきだと思います。ハナトピアの周辺に学校が整備されてもいいと思います。局地的な豪雨となる場合も考えられますので、防災上の観点からも、高台にあるところで、誰でも避難しやすく、誰もが知っていて分かりやすい場所に整備していくべきだと思います。長寿命化計画であっても、いつかは建替えしなければならない時期が来ますので、教育施設の整備を将来に対する投資と考えてはいかがでしょうか。

菊地市長

子どもの出生数にはいつも注視しており、10 年前と比較しますと 100 人が減少しているので、少し気落ちしました。当市だけの傾向ではありませんが、どこかで減少化を食い止めなければならないと思います。ピーク時は 490 人の出生数でしたが、現在は 380 人となり、大きく減少していますので、将来的にはどうなるかと不安です。減少した分については、どこかで穴埋めをしなければなりません。穴埋めのためには、他の地区からの転入者を増やすしかありませんので、転入していただけるように魅力的なまちづくりを進めていかなければならないと思います。

佐藤委員長

あれだけ宅地開発をしていた泉区の人口が、今では激減しています。その理由は、魅力がなくなったからだと思います。教育施設等が充実していたにもかかわらず魅力がなくなったのは、日常生活に利用できる施設がなかったからだと思います。その点を常に考慮していきながら、魅力を発信していくためには、先を見越した投資をしていかなければならないと思います。

小林委員

他の学校と比べると、西小学校の児童の皆さんは大変かわいそうな状況にあると感じておりますので、広い土地を確保して移転ができて、西地区の拠点となり、玉浦地区のようなコミュニティが形成されたと感じております。

菊地市長

人口の減少の要因について地区別に分析しておりますが、西地区は増加して、中央部は減少が進み、玉浦地区は一度減少して、増加傾向にあります。玉浦地区は約 8300 人、その倍が西地区、西地区より少し多いのが中央部になり、一番多い中央部が減少して、玉浦地区と西地区が増加しておりますので、その要因が何であるかを分析して、どう伸ばしていけばよいか検討中であります。人口減少化社会に対する施策が課題であり、教育とまちづくりの連携などが大きな柱であると感じておりますので、さらに充実させていきたいと考えております。

最後に一つ話をさせていただきますが、西児童センターの利用者が増えて、児童館と公民館機能を併設させるのではかなり厳しい状況となっております。人口規模的には半分である玉浦地区のコミュニティセンターの敷地面積の 3 分の 1 しかなく、建物の面積に関してはよりひどい状況にありますので、公民館機能を分離させたいと考えております。今年度中には、場所を選定し公民館を整備していきたいと考えております。東部地区は、防災機能を持つ玉浦コミュニティセンターが完成し一段落つきましたので、西地区においても土砂災害警戒区域等がありますので、土砂災害を想定した避難場所となる施設を整備したいと考えており、場所の選定や面積などを検討していきたいと思っております。また、改めて御提案させていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

そのほか、この総合教育会議については、緊急性を要する場合に第一段階の議論の場所となりますので、いじめの問題なども含めて何かあればお声がけをさせていただきたいと思っております。

小林委員

今、コミュニティセンターのお話がでましたけれども、玉浦中学校と玉浦コミュニティセンターの連携は、あの場所に集まっているからこそ出来るのだと思います。西地区にもコミュニティセンターを整備するのであれば、学校と連携できるよう一体化した場所で、さらにまちの中心となるような場所に選定していただきたいと思います。

佐藤委員長

防災と災害時に緊急のシェルターとなる場所だと思いますので、西地区の場合には豪雨から身を守るために、高台にある方が良いのではないかと思います。東松島市では、学校に避難して被災しましたので、地域の方にとっては、行政不信を増幅させてしまったと思います。日常生活において安心感の得られる場所に施設を整備していただければと思います。

菊地市長

いろいろな考え方があるかと思いますが、高台に行く途中で冠水していることも十分考えられ、避難場所までたどり着けない場合もありますので、不安を感じたらすぐに避難できるように身近な場所を第一にと考えております。

佐藤委員長

情報発信を早めに出していただきたいと思います。閉上で被災した後に、伊豆大島で被災された知り合いがおりまして、みんなが避難してもその地域を知らないで被災してしまうような場合もあります。西地区は新しい住民の方が入ってきておりますので、そういうことがないようにしていただきたいと思います。

玉浦地区では、東日本大震災の時に車で避難された方が、津波により車の被害を受けたことがありますので、ケースバイケースで防災計画を策定する必要性もあると思います。行政側のやることは、100%安心できるといった気持ちを持たなければならないと思いますので、分かりやすいところに、見えやすいところに、安心できるところに、避難場所を確保できるようにしていただきたいと思います。

菊地市長

いつ災害が起こるか分からない状態にあり、分かりにくい場所では、円滑な避難ができませんので、知恵を絞って場所を選定していきたいと思います。

議題としては2題お話させていただきましたが、議題の中で無ければここで打ち切らせていただいてその他に入らせていただきたいと思います。いかがでしょうか。

構成員

はい。

菊地市長

それでは議題を終わりにしたいと思います。3 その他は事務局からお願いします。

高橋教育次長兼総務課長事務取扱

熱心な御議論、御疲れ様でございました。その他に入らせていただきます。皆様から何かございましたらお願いします。事務局からは特にございません。無いようでしたらこの会を閉じさせていただくということによろしいでしょうか。

菊地市長

よろしいですか。

構成員

はい。

高橋教育次長兼総務課長事務取扱

以上をもちまして、平成29年度第1回総合教育会議を閉会させていただきたいと思います。ありがとうございました。

(午後4時35分閉会)

この議事録の作成者は、次のとおりである。

教育総務課副参事兼課長補佐 大友 悦男

教育総務課総務係長 山下 真理子

上記記録の正確なることを認め、ここに署名する。

平成29年6月29日

議事録署名人

百月 崇